

福岡市総合図書館

映像ホール

FUKUOKA CITY
PUBLIC LIBRARY
MOVIE HALL

シネラ

NEWS

7

JULY

1997 No.12



北京オペラブルース

■ 特別企画 ■

福岡での映画100年の歴史を
振り返る

博多、映画100年祭



博多どんたく

■ 特集 ■

中国返還記念上映
香港映画特集

70年代以降の作品を中心に紹介
実験映画特集

特集 | 中国返還記念上映

香港映画特集

アジア映画の中心的役割を果たしてきた香港映画。7月1日の中国返還を機に、香港映画の歴史とその魅力に迫る特集上映。今回、日本初公開となる「同命鴛鴦」や「ルージュ」をはじめ、香港ニューウェーブの旗手アン・ホイとアレク・フオンのデビュー作等、香港映画史に残る代表作を上映します。

会期：7月2日(水)～7月6日(日)
7月9日(水)～7月13日(日)
観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)
※定員制、各回入替制
※チケットはすべて当日券、前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。また福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

7月2日(水) 14:00 / 7月4日(金) 14:00
/ 7月5日(土) 17:00

同命鴛鴦

1960年 / 35ミリ カラー / 92分
監督：朱石麟 (チュウ・シーリン)
主演：夏夢 (シア・モン)
戦前は上海、戦後は香港で活躍した朱石麟監督の香港時代の代表作。ギリシャ悲劇を思わせる綿密な構成により、保守的な社会の中で引き裂かれていく若い夫婦を格調高く描いている。主演の夏夢は「神様の傑作」と謳われた美人女優である。



7月2日(水) 19:00 / 7月6日(日) 15:00

シークレット

1979年 / 35ミリ カラー / 89分
監督：許鞍華 (アン・ホイ)
主演：張艾嘉 (シルビア・チャン)
香港ニューウェーブを代表する女性監督・許鞍華の衝撃的デビュー作。婚約中の若いカップルの死体から始まる迷宮のような物語は、ニコラス・ロウグの「赤い影」を手本としており、サスペンスリラーとして完成度は高い。香港ニューウェーブの到来を告げた記念碑的作品である。



特集 | 70年代以降の作品を中心に紹介

実験映画特集

今回の特集では1970年代以降の作品を中心に紹介していきます。日本の実験映画は70年代に紹介された欧米の実験映画の影響を強く受けました。その後数多くの実験映画祭、地道なシネマテーク運動を経て、日本独自の進化を遂げます。そして1980年代以降、日本の実験映画は世界的に注目されていきます。今回は実験映画の理論家、作家として1960年代以降、常に第一線で活躍している松本俊夫の劇映画「ドグラ・マグラ」も合わせて上映します。

会期：7月16日(水)～7月21日(月)
観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)
※福岡市内居住の65才以上の方大人料金の半額・障害者の方無料(手帳の提示が必要です。)
※定員制、各回入替制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

7月16日(水) 14:00 / 7月19日(土) 11:00

物語の解体 (104分)

物語を語る上で私たちは無意識のうちに一定の約束事に縛られている。習慣的に規定されたその約束を敢えて逸脱し、物語の構造そのものを解体していく手段として映像を利用しようという試み。迷宮化された物語をめぐる楽しみ。

「伝説の午後 いつか見たドラキュラ」

……………1967年 / 39分 大林宣彦

「迷宮譚」……………1975年 / 20分 寺山修司

「時が乱吹く」……………1991年 / 64分 金井 勝



時が乱吹く

7月16日(水) 19:00 / 7月19日(土) 15:00

日記映画[もしくは私的印象] (115分)

映像作家、ジョナス・メカスの影響を受け、1970年代後半から日本でも作家自身の心象、体験を記録して「日記映画」を作る作家たちが現れた。古典文学の日記文学や近代文学の私小説に連なるもっとも私的な実験映画の流れ。

「私小説V」

……………1991年 / 25分 かわなかのぶひる

「15日間」……………1980年 / 90分 鈴木志郎康



私小説V

7月4日(金) 19:00 / 7月6日(日) 11:00

霊幻師弟 人嚇人

1983年 / 35ミリ カラー / 99分
監督：午馬 (ウー・マ)
主演：洪金寶 (サム・ハン・キンポー)
日本でもキョンシーブームを巻き起こした「霊幻道師」の原型ともいえる作品であるが、内容の密度では本作が上である。特に主演の洪金寶の豪快なカンフーアクションは、良く練られた脚本や演出とマッチして傑作ともいえる仕上がりになっている。



7月9日(水) 14:00 / 7月12日(土) 17:00

ホームカミング

1984年 / 35ミリ カラー / 96分
監督：嚴浩 (イム・ホー)
主演：斯琴高娃 (スーチン・カオワー)
祖父の墓参りのため20年ぶりに故郷の中国へ帰郷をした女性・ジャンシャン。物質的に豊かではあるが生活に疲れた彼女と、貧しいが安心して生きている故郷の人々の姿が、香港と中国の対比として描かれる。香港の中国返還をテーマとした映画の中で最も初期の秀作。



7月9日(水) 19:00 / 7月11日(金) 14:00
/ 7月13日(日) 11:00

北京オペラブルース

1986年 / 35ミリ カラー / 105分
監督：徐克 (ツイ・ハーク)
主演：林青霞 (ブリジット・リン)
ヒットを次々に飛ばし、香港のスピルバーグと異名をとる徐克の代表作。辛亥革命直後の中国を舞台に革命派のゲリラと、それに巻き込まれた人々をテンポよく描いた、これぞ香港映画と言わなければならない。男装の麗人・林青霞が素晴らしい魅力に溢れている。



7月17日(木) 14:00 / 7月20日(日) 11:00

物語の周縁 (106分)

物語の解体化は同時に新しい映像言語を生み出し、必ずしも言語を必要としない物語の構築を可能としていく。非現実的な映像そのものが記号化し、新しいイメージを作り始めていく。1980年代以降の映像コミュニケーション。

「悲しいガルドフ」

……………1984年 / 20分 山田勇男

「MY COLLECTION」

……………1988年 / 8分 安藤紘平

「個人都市」

……………1990年 / 25分 黒坂圭太

「片足の神様」

……………1991年 / 20分 黒澤 潤

「薄墨の都」

……………1992年 / 33分 山田勇男



個人都市

7月17日(木) 19:00 / 7月20日(日) 15:00

モーション・コントロール (94分)

映画とは静止した絵が24分の1秒の速さで連続することによって起こる目の錯覚を利用して動きを表す。この機械的な運動を利用して、新しい映像表現を追求していく。映画の構造そのものを主題とした構造主義映画を含む作品群。

「NO PERFORATION」

……………1971年 / 10分 奥山順市

「オランダ人の写真」

……………1976年 / 7分 居田伊佐雄

「SWITCH BACK」

……………1977年 / 9分 かわなかのぶひる

「通り過ぎる電車のように」

……………1978年 / 10分 安藤紘平

「ゴーランド」……………1981年 / 8分 加藤 到

「PULSE」……………1982年 / 6分 峰岸恵一

「RING」……………1982年 / 7分 賛田英雄

「WALL」……………1987年 / 7分 伊藤高志

「海の唄」……………1988年 / 30分 黒坂圭太

7月10日(木) 19:00 / 7月12日(土) 11:00

ルージュ

1988年 / 35ミリ カラー / 99分
監督：關錦鵬 (スタンリー・クワン)
主演：張國榮 (レスリー・チョン)
耽美的で内面的な映像作品を作り続ける關錦鵬は香港では特異な存在であり、新時代の香港映画を象徴する。本作は1934年に心中した娼妓が幽霊となって現代に現れるという幽霊物語であるが、過去の情念を描きながら同時に現在を生きる事を完成度高く表現している。



7月10日(木) 14:00 / 7月13日(日) 15:00

つきせぬ想い

1993年 / 35ミリ カラー / 99分
監督：爾冬陞 (イー・トンシン)
出演：袁詠儀 (アニタ・ユン)
売れないサクセス奏者キットと街頭芸人の娘ミンの心温まる純愛映画の傑作。香港では大ヒットを記録し香港アカデミー賞の主要部門を独占している。不治の病に犯されながらも明るく元気を失わない少女ミンを演じる袁詠儀が素晴らしい。



7月11日(金) 19:00 / 7月12日(土) 14:00

九龍の獅子

1984年 / 35ミリ カラー / 107分
監督：麥當雄 (ジョニー・マック)
出演：林威 (リン・ウェイ)
この作品の主人公達は広東省から一獲千金を夢見て香港へ越境してきたギャングである。香港返還が現実になってきた時、経済格差が強く意識されるようになる。本作は現実にあった話を下敷きにして製作された、正に香港版の「俺達に明日はない」である。



7月18日(金) 14:00 / 7月21日(月) 11:00

女性作家 (87分)

1970年代以降、実験映画のジャンルにも多くの女性作家が現れてくる。フェミニンな感性によって、作り出される映像はそれまでの実験映画の系譜を取り込みながら感性そのものによってそれまでにない作品に仕上げていく。

「AT YUKIGAYA 2」

……………1974年 / 10分 出光真子

「おでかけ日記」……………1988年 / 47分 小口詩子

「女王陛下のポリエステル犬」……………1994年 / 30分 寺島真理



女王陛下のポリエステル犬

7月18日(金) 19:00 / 7月21日(月) 15:00

ドグラ・マグラ

日本探偵小説の中でも三大奇書の一つといわれる夢野久作の「ドグラ・マグラ」。映画化不可能といわれたこの怪奇幻想小説を、脚本大和屋、監督松本俊夫で映画化。精神病院で目覚めた記憶喪失の少年と彼を治療する医師を中心に展開する迷宮の構造を持つ物語。

「ドグラ・マグラ」

……………1988年 / 109分 監督：松本俊夫



特別企画 福岡での映画100年の歴史を振り返る

博多、映画100年祭

福岡で初めて映画が上映されたのは明治30年8月12日聖福寺のこと。今年は、福岡での映画初上映から数えてちょうど100年目となる。福岡での映画100年の歴史を振り返り、映画の現在と未来を探ります。

会期：7月23日(水)～

8月10日(日)

※7月28日(月) 7月31日(木)

8月4日(月)は休館日。

※7月29日(火) 8月5日(火)は

映画の上映はありません。

主催：博多・映画100年祭実行委

員会、福岡市総合図書館

協力：アジアフォーカス・福岡映

画祭実行委員会

観覧料：

●7月23日(水)～8月6日(水)

500円(当日券)

2,000円(5回券)

●8月7日(木)～9日(土)

1,000円(当日券のみ)

●8月10日(日)

1,500円

(但し往復ハガキの事前申込が必要)

※定員制、各回入替制(但し8月7日・8日

は入替なし)

※チケット(5回券)の販売は7月上旬の予定

福岡を舞台にした映画

7月23日(水)14:00/7月24日(木)16:30

鉄腕投手・稲尾物語

1959年/35ミリ モノクロ/95分 [東宝]

監督：本多猪四郎 出演：稲尾和久

1958年のプロ野球日本シリーズにおいて、西鉄ライオンズは巨人を相手に3連敗の後4連勝して日本一となる。その立役者となった稲尾和久の少年時代から58年の日本シリーズまでを描いた作品。稲尾和久他多くの西鉄選手が出演している。



7月23日(水)16:30

黒田騒動

1956年/35ミリ モノクロ/109分 [東映]

監督：内田吐夢 出演：片岡千恵蔵

黒田家の新任家老・倉橋十太夫は大船の建造を初めお家とつづしになかなかない所行を重ねる。窮余の末、古参の家老・栗山大膳は黒田忠之を幕府に訴えでる。北条秀司の原作にキリシタンの陰謀を加えさらに厚みのある物語とされている。



7月23日(水)19:00

玄海つれづれ節

1986年/35ミリ カラー/135分 [東映]

監督：出目昌伸 出演：吉永小百合

吉永小百合がイメージチェンジし八代亜紀とのコンビで挑戦した人情コメディ。失踪した夫を追って九州へやってきた吉永小百合と、借金取りの八代亜紀。吉永小百合が役柄を意欲的に演じている。



7月24日(木)14:00

決戦黒田城

1960年/35ミリ カラー [新東宝]

監督：加戸野五郎 出演：嵐寛寿郎

天草の乱の鎮圧の功績により黒田家藩主・忠之より名槍「日本号」を賜った新免新九郎。忠之の死後、悪家老に支配される黒田藩で直しのため、新九郎は宮本武蔵や柳生十兵衛の協力を得て、悪家老の陰謀を暴いて行く娯楽時代劇。



7月24日(木)19:00

四季・奈津子

1980年/35ミリ カラー/120分 [東映]

監督：東陽一 出演：鳥丸せつ子

五木寛之のベストセラー小説を原作として、四人姉妹の次女・奈津子が平凡な生活から抜け出して女優になるまでを描く。東陽一監督は当時の時代感覚や女性特有の浮遊感をうまく表現している。



7月25日(金)14:00/7月30日(水)19:00

点と線

1958年/35ミリ カラー/85分 [東映]

監督：小林恒夫 出演：南広

福岡市近郊の香椎浜で発見された男女の死体の謎を追って展開されるミステリー。捜査線上に浮かんだ容疑者は殺人が行われた日、北海道に出張していた。原作はあまりにも有名な松本清張のベストセラー小説。



7月25日(金)16:30

火の雨がふる

1991年/35ミリ カラー/80分 [スペース映像(アニメーション)]

監督：有原誠治 ナレーション：米倉育加

第二次大戦における福岡の空襲体験の証言をまとめた記録集「火の雨が降った」をベースとしたアニメーション。東京の空襲で家族を亡くした博多にやってきた品川頼子と、博多の子供達との交流を通じて戦争の悲惨さと平和の重要性を訴えている。



7月25日(金)19:00

日蓮と蒙古大襲来

1958年/35ミリ カラー/138分 [東映]

監督：渡辺邦男 出演：長谷川一夫

日本映画史の中でも最大級というべきスケールで製作された歴史スペクタクル。日蓮上人が様々な過程をふみ、自らの道を確立していくさまが描かれる。ラストの蒙古軍の船が台風で沈没する様は特撮を含めて見事なシーンとなっている。



7月30日(水)14:00/8月2日(土)13:30

しいのみ学園

1955年/16ミリ モノクロ/100分 [新東宝]

監督：清水宏 出演：香川京子

福岡市の実話を元にした映画。小児麻痺の子供を二人抱える大学教師の主人公は、家財をなげうって、子供達の為に学校を設立する。明るく素朴な演技を見せる子供達の表情が素晴らしい感動作である。



7月30日(水)16:30/8月2日(土)11:00

空の大怪獣ラドン

1956年/35ミリ カラー/82分 [東宝]

監督：本多猪四郎 出演：佐原健二

核実験により太古の翼手竜が怪獣・ラドンとして現代に蘇る。「ゴジラ」の姉妹編とも言える本作はカラー画面による特撮の効果を最大限生かした傑作である。特にラドンが破壊する福岡市の町並みの精巧さは特筆できる。



8月1日(金)14:00

海と毒薬

1986年/35ミリ モノクロ/123分

監督：熊井啓 出演：奥田瑛二

第二次大戦末期にあった米軍捕虜の生体解剖事件。これを元にした遠藤周作の小説「海と毒薬」の映画化作品。熊井啓監督は驚くべきリアリズムの手法により、日本人の罪の意識を告発していく。



8月1日(金)16:30

博多どんたく

1948年/16ミリ モノクロ/78分 [大映]

監督：丸根賛太郎 出演：阪東妻三郎

博多の奇人・博多八丁兵衛を主人公にした笑いあり、涙ありの人情ドラマ。年に一度、武士と町民の身分をなくし無礼講が許されるという「博多どんたく」の日に、博多町民が武士に対する日頃のうっぷんを爆発させる。



8月1日(金)19:00

博多っ子純情

1978年/35ミリ カラー/94分

[エル・アイ・エル]

漫画家・長谷川法世が故郷・博多への思いを託して描いた漫画「博多っ子純情」の映画化。主人公・郷六平の青春がリアルな描写と漫画的なデフォルメがうまくミックスされた形で描かれる。また博多の街で撮影されており、当時の博多がふんだんに登場する。



8月2日(土)16:00

にっぽん三銃士 博多帯しめ一本どっこの巻

1973年/35ミリ カラー/96分 [東京映画]

監督：岡本喜八 出演：小林桂樹

仕事も家庭も捨て、体制からドロップアウトして博多へ流れてきた三人のアウトロー達を喜劇タッチで描いた映画。本作に溢れている希望と絶望が奇妙に入り混じったアナーキーな雰囲気は、まざれもなく70年代前半の時代精神である。



石井聰互特集

7月26日(土)

1957年博多生まれの石井聰互は日本大学在学中より刺激的な作品を次々に発表し、一躍自主製作映画の寵児となる。今回は石井監督の「高校大バニック」「88万の1の孤独」「突撃！博多愚連隊」を16ミリブローアップ版で上映する他、全編福岡ロケによる「水の中の八月」等で石井ワールドの魅力に迫る。

11:00「高校大バニック」1977年/16ミリ

カラー/20分、「88万の1の孤独」

1977年/16ミリ カラー/45分、

「シャッフル」1981年/35ミリ

カラー/34分

13:30「突撃！博多愚連隊」1978年/16ミリ

カラー/85分、「指圧王者」1989年/

35ミリ カラー/13分

16:00「水の中の八月」1995年/35ミリ

カラー/117分

無法松を比較する

7月27日(日)

北九州・小倉の車引き、富島松五郎の生涯を描いたあまりにも有名な、日本映画屈指の傑作「無法松の一生」。43年に阪東妻三郎主演で製作されたこの映画は、戦時中は軍の検閲により、そして戦後はGHQにより2度の検閲を受けている。この無念をはらすため58年、稲垣浩監督は三船敏郎主演により再度「無法松の一生」を映画化している。甲乙つけがたいこの2本の「無法松」を堪能する。

11:00/16:00

「無法松の一生」1958年/35ミリ

カラー/105分 監督：稲垣浩 主演：

三船敏郎

13:30「無法松の一生」

1943年/35ミリ

モノクロ/80分

監督：稲垣浩

主演：阪東妻三郎



特集・大河内傳次郎

8月3日(日)

福岡県豊前市出身の大河内傳次郎は無声映画時代の日本映画の黄金時代を担った代表的な俳優であった。特に伊藤大輔監督とのコンビは有名であり「御洗次郎吉格子」を初め多くの傑作を残している。またハマリ役となった「丹下左膳」、堂々たる演技を見せる「栗山大膳」と時代劇の大スターであった大河内傳次郎の魅力を堪能する。

11:00「栗山大膳」

1936年/16ミリ モノクロ/97分

[日活] 監督：池田富保

13:30「丹下左膳語話 百万両の壺」

1935年/16ミリ モノクロ/92分

[日活] 監督：山中貞雄

16:00「御洗次郎吉格子」

1931年/16ミリ モノクロ(サイレント)/

60分 [日活] 監督：伊藤大輔

8月6日(水)～10日(日)の予定

詳細はシネラNEWS8月号に掲載します。

日本映画100年の夢

8月6日(水)

14:00/19:00「夢のシネマ、東京の夢」

監督：吉田喜重

「映画のふるさと」

監督：鈴木一夫

※定員制、各回入替制

これが映画だ！マキノ雅弘

「次郎長三国志」一挙上映

8月7日(木)・8日(金)

11:00「次郎長三国志・次郎長売り出す」

13:30「次郎長三国志・次郎長初旅」

15:10「次郎長三国志・次郎長と石松」

17:00「次郎長三国志・勢揃い清水港」

18:40「次郎長三国志・殿込み甲州路」

※入れ替えなし。

映画100年の原点

8月9日(土)

14:00「リュミエール・プログラム」

伴奏：岡本えり(ピアニスト)

博多の芸能と映画

8月10日(日) (事前のハガキ申込が必要)

13:30 博多独楽や筑前琵琶等の公演

「血煙荒神山」昭和4年 [日活] 主演：

大河内傳次郎、「娘の母」昭和8年 [千

恵蔵プロ] 主演：片岡千恵蔵

弁士：井上陽一 演奏：大野政夫と和洋合奏団

博多映画100年

福岡市で初めて映画が上映されたのが、1897(明治30)年8月12日のこと。場所は現在の博多区御供所町の聖福寺の境内にあった「教楽社」という歌舞伎や演劇の興行を主とした劇場である。連日連夜大盛況の賑わいでも当時の新聞にも「閃一闪の光を放つ」ともに人物動き禽獣踊りその其奇其妙さに云ふべからず宛も其実物に接するの感あり。今世理化学の進歩恐るべきかな。」と人々の驚きようが述べられている。

その後市内最初の常設映画館「世界館」が登場したのが1913(大正2)年のことで博多区東中洲に開館した。この時期は第一次世界大戦の特需や、石炭産業の好況などを背景にして、常設映画館の開館や劇場から映画館への転換、一般劇場での映画の特別興行が相次ぎ、大衆娯楽文化の流れを作った。大正末には福岡県下の映画館は55館を数え、東京、大阪に次ぐ映画都市となった。

日本の映画の最盛期は1958(昭和33)年、全国で7千館あまりの映画館が営業していた。当時の観客動員数は年間約11億2700万人、一人当たり年12回映画館に足を運んでいる。福岡市でもピーク時には全国一と言われる78館を数え、年間入場者数も1908万人にのぼった。実に市民一人あたり年30回以上も映画を見た計算になる。当時の福岡市民に映画がいかに親しまれていたかが伺い知れる。

映像ホール・シネラスケジュール

月	日	曜日	内 容
7	1	火	休 館 日
	2	水	14:00 同命鴛鴦 19:00 シークレット
	3	木	14:00 空山霊雨 19:00 父子情
	4	金	14:00 同命鴛鴦 19:00 霊幻師弟 人嚇人
	5	土	11:00 父子情 14:00 空山霊雨 17:00 同命鴛鴦
	6	日	11:00 霊幻師弟 人嚇人 15:00 シークレット
	7	月	休 館 日
	8	火	上映はありません
	9	水	14:00 ホームカミング 19:00 北京オペラブルース
	10	木	14:00 つきせぬ想い 19:00 ルージュ
	11	金	14:00 北京オペラブルース 19:00 九龍の獅子
	12	土	11:00 ルージュ 14:00 九龍の獅子 17:00 ホームカミング
	13	日	11:00 北京オペラブルース 15:00 つきせぬ想い
	14	月	休 館 日
	15	火	上映はありません
	16	水	14:00 「伝説の午後・いつか見たドラキュラ」他 19:00 「私小説V」他
	17	木	14:00 「悲しいガドルフ」他 19:00 「NO PERFORATION」他
	18	金	14:00 「AT YUKIGAYA 2」他 19:00 ドグラ・マグラ
	19	土	11:00 「伝説の午後・いつか見たドラキュラ」他 15:00 「私小説V」他
	20	日	11:00 「悲しいガドルフ」他 15:00 「NO PERFORATION」他
	21	月	11:00 「AT YUKIGAYA 2」他 15:00 ドグラ・マグラ
	22	火	上映はありません
	23	水	14:00 鉄腕投手・稲尾物語 16:30 黒田騒動 19:00 玄海つれづれ節
	24	木	14:00 決戦黒田城 16:30 鉄腕投手・稲尾物語 19:00 四季・奈津子
	25	金	14:00 点と線 16:30 火の雨がふる 19:00 日蓮と蒙古大襲来
	26	土	11:00 高校大バニック 他 13:30 突撃！博多愚連隊 他 16:00 水の中の八月
	27	日	11:00 無法松の一生 (58年) 13:30 無法松の一生 (43年) 16:00 無法松の一生 (58年)
	28	月	休 館 日
	29	火	上映はありません
	30	水	14:00 しいのみ学園 16:30 空の大怪獣ラドン 19:00 点と線
	31	木	月 末 休 館 日
8	1	金	14:00 海と毒薬 16:30 博多どんたく 19:00 博多っ子純情
	2	土	11:00 空の大怪獣ラドン 13:30 しいのみ学園 16:00 にっぽん三銃士 博多帯しめ一本どこの巻
	3	日	11:00 栗山大膳 13:30 丹下左膳餘話 百万両の壺 16:00 御誂次郎吉格子
	4	月	休 館 日
	5	火	上映はありません

※満席の場合、入場をご遠慮いただく場合がございますので御了承ください。

第1回文書資料新収蔵品展

平成7年度までに収集した文書資料を紹介する展覧会を開催します。博多の豪商神屋宗湛をはじめ、福岡藩士伊丹氏や神吉氏、初代福岡市長山中立木、太平洋戦争関係などの資料を展示します。この展覧会は、福岡藩政、博多商人、福岡市政、戦時下の福岡の四つのコーナーに分けています。

会 期：6月17日(火)～7月21日(月)
会 場：福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料：無料

「博多、映画100年祭」特別企画展

会 期：7月26日(土)～8月30日(土)
会 場：福岡市総合図書館1階ギャラリーほか
観覧料：無料(但し、シネラを除く)

福岡での映画100年の歴史を振り返り、福岡の映画関係の資料を中心に展示します。(大正から昭和にかけての映画チラシや映画館プログラムなど)

シネラNEWS送付のご案内

シネラで上映する作品の紹介やスケジュール、映像ホール等で開催される各種イベントなどの情報を満載した「シネラNEWS」を毎月お届けします。(但し、要郵送料負担)

申込希望月より'98年3月までの郵送料(90円切手×8月分＝720円)の切手を同封して、下記の宛先までお申込み下さい。

宛先：〒814 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館映像資料課まで

なお、毎月当ホールの上映スケジュールポスターを掲示していただける店舗等も募集いたしております。詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

映像ホール利用申し込みについて

平成9年10月以降映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することができます。(但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会の利用に限る)

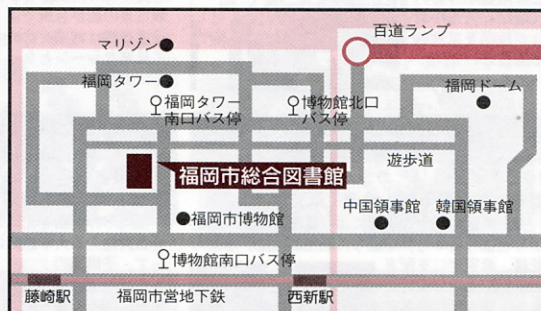
期間：10月29日(水)～11月2日(日)

ただし10月31日(金)は月末休館日

11月26日(水)～11月29日(土)

(11月26日～29日の申込は7月2日11時より受け付けます。)

利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課までお問い合わせください。



交通機関：地下鉄西新駅および藤崎駅より徒歩15分
西鉄バス博物館南口および
福岡タワー南口バス停留所より1分
都市高速百道ランプより車で2分



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

お問い合わせは

Tel : 092-852-0600 Fax : 092-852-0609